

第6回： いま水環境について私たちが知りたいこと

— 水環境をめぐる新たな問題とその対策 —

開催日： 1998年8月28日 / 会場： 「北とぴあ・飛鳥ホール」

開催趣旨： 現在、私たちを取り巻く環境問題については様々な対策がとられていますが、なお新たな問題が次々と生じており、マスコミ等を通じて私たちの知るところとなっております。今回はこれら最近の環境問題のうち、水環境に関連するものについて、専門家の解説により現状を明らかにするとともに、解決にむけた今後の方向を探りたいと考え、セミナーを企画しました。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

○ 飲み水の微生物による汚染とその対策（平田強／麻布大・環保）

水道水を介して集団感染を起こす微生物の種類とその性質、集団発生の現状とその原因、微生物の除去や消毒などの対応策について解説する。また、病原微生物による感染へのリスク評価の考え方についても紹介する。

○ 硝酸性窒素による地下水汚染の現状と対策（田瀬則雄／筑波大・地球科学）

地下水は一般的に水質が良く、貴重な水資源として古くから利用されている。しかし、近年、硝酸性窒素による汚染が問題視されていることから、その汚染の現状および対策について解説した。また、化学肥料や畜舎排水など農業系の汚染源対策の必要性について述べる。

○ 非イオン界面活性剤をめぐる現状と対策（菊地幹夫／神奈川工大・工）

産業および家庭で利用されている洗剤の中で、近年、特に生産量が増加している非イオン界面活性剤について、その構造・種類や環境水中の検出濃度などについて解説する。非イオン界面活性剤の環境への影響の解明が今後の課題であることを述べる。

○ コプラナーPCB — ダイオキシン汚染の視点から —（立川涼／高知大）

ダイオキシン類の一群であるコプラナーPCB について、ヒトや海洋の高等動物での汚染濃度の調査結果とその毒性影響について解説する。ダイオキシン毒性の中で寄与率の高いコプラナーPCB の許容値などの見直しの必要性を提示する。

○ 日本における環境ホルモン汚染の現状と対策（井口泰泉／横浜市大・理）

近年、問題となっている環境ホルモンについて、既に報告されている生態系への影響に関する研究事例や日本での汚染の現状について解説する。生殖をはじめ、胎仔期から新生仔期への影響などに関する研究の必要性を述べる。